



会員 各位

平成29年9月12日

巻頭言

NPOソフトインダストリー研究会
理事長 白石 嘉宏

まだ揺籃期だけれど

この稿は8月8日に書いています。書きたいことはいろいろあります。でもこの会報が皆様のお手元に届くころにはさらなる変化があることも。たとえば北朝鮮のミサイル、アメリカ大統領の身辺問題、わが国の政治等々。我が国については第三次安倍改造内閣の支持率調査で鮮明になったことは、支持率は上がったが安倍首相に対する不信はさらに増えました。政権のトップが信頼されていないということになると何時解散になってもおかしくないでしょう。

さて、閑話休題。ITの登場、そのツールとしてのスマホの普及さらにAIの進化は世の中の流れを思うより早く変えてゆきます。大きくは経済活動の根幹になる通貨として登場したビットコインは2つの組織に分かれましたが、それにより一段と進化し普及の速度を速めます。

丸井がビットコインでの支払いを受け入れましたがこの流れはこれからも続き電子マネーに替わって行くでしょう。もちろん各国が発行する通貨は存在し続けるでしょうが各国の中央銀行の通貨政策の思惑にかかわらずビットコイン所有者はいつでもどこでも好きな通貨を選択し、最も自身にとって有利な使い方をします。各国は通貨とそれを使っての発行量による景気刺激、為替政策などがそう遠くない将来効果をもたらさなくなるでしょう。手数料は金融業界を成り立たせている根幹ですが、格段に安いビットコインの手数料により収益は激減します。

事業内容の全面的な見直しに迫られます。経済は急速にグローバル化するでしょう。

情報分野による変化も同様です。放送はそれぞれの国の許認可事項ですが情報通信は個人個人の間のやり取りですからこれを規制することは人権侵害になります。発信者と受信者による直接の情報交換、それは流通でもサービスでも中間事業者が活躍していた舞台を大幅に削ってゆきます。すでにアマゾン、グーグル、ユーチューブなどが既存の代理店業を崩し始めています。変わって大きく前面に出てきたのが宅配というサービス産業です。サービス産業でも個人個人に対するサービスは、「個人個人に」と言うことをキーとしてこれから大幅に伸張するでしょう。

AIについては14歳で将棋の29連勝を成し遂げた藤井壮太氏の指しかたはAI相手の習練によると報道されています。中国ではテンセントが提供するAIを活用した対話プログラムが「中国共産党は無能だ」との批判を流したため急遽サービスが停止されました。

今は未だこのようなことでAIは騒がれえいますが、そのうち我々の知らないうちにアラカルト分野で使われるようになるでしょう。

昭和生まれの後期高齢者、私は着いて行けないでしょう。

SORUCA 通信 contents

- 巻頭言 / まだ揺籃期だけれど / 白石 嘉宏
- 「上機嫌に生きる」 / 渡辺 勝範
- 地方都市から世界へ向けての「地方創生」 / 奥原 英彦
- 事業報告書・会計報告
- 「見たことしたこと」 白石回想録 11・12 白石 嘉宏
- 編集後記 / 渡辺 勝範



「上機嫌に生きる」

『きらきら眼鏡』という小説を読んだ。著者森沢明夫氏の地元船橋市が舞台のラブストーリーである。船橋市では市制 80 周年の記念行事として映画化がスタートし、ボランティアの募集も始まった。年上の女性「大滝あかね」は、日常の物事を幸福感たっぷりに捉える“幸せの天才”だった。恋人が不治の病で入院し、死と直面していても、目に見えない「きらきら眼鏡」を掛ければ、相手の気持ちになって世界を見る術を身に付けていた。「いま、きらきら眼鏡、かけてます？」「ずっとかけてるよ。かけてないと、死んじゃいそうだったし。だから……、涙がとまらないじゃん」

主人公の明海君は 1,980 円の黒縁眼鏡をかけて、気持ちを入れ替えてみるが、目に見えない眼鏡をかけて「きらきら」を見る術を修得するにはどうすればいいのだろう。

偶々、コーチングをやっている知人から、最近は企業研修よりも結婚相談に力をいれているという。3か月のコーチングでキラキラ輝く女性や男性に変身するそうだ。その人が変わると、出会いは向こうからやってくるという。興味をもったので導入部だったが、話を聞きに行った。従来からあるカウンセリングというのは、マイナスの状態をゼロに戻すためのものであり、その手法は過去の自分と向き合わせる。しかしコーチングはマイナスを一気にプラスにもっていくという。その手法は未来の自分の姿に向き合わせるのだという。自分に自信を持つというのではなく、自分を認め、自分を信頼する姿がイメージされる。このコーチングの手法は新たな自己啓発につながると確信した。

雰囲気のある人に会うのはうれしい。国木田独歩の『忘れぬ人々』ではないが、思い出に刻まれた人を思い出すことができることは自身の歴史をもっていることである。そして相手への思いとか尊敬は等しく、自分自身への尊敬の念であると言える。「何か面白いことはないか」と好奇心を旺盛にして、苦難を喜んで受け入れよう。最近は以前にも増して、腹が立つことが多い。新聞もテレビも、課題に真正面から取り組む姿勢がないと言っていい。「くだらん」とか「いい加減にしろ」とか言っていると誰も相手にしてくれなくなるのだから、テレビや新聞のニュースを話題にせず、「つまらん、つまらん、なにかおもしろいことはないか」と言葉を変えてみよう。おもしろいこと探しの名人を目指してみようではないか。

最近、家内から「上機嫌！、上機嫌！」と言われる。どうも笑顔はなく、修行僧のようにしゃべらず、ただむすっとしているのが堪らなく、不愉快だそうだ。「上機嫌！」とイエローカードを出される度に、笑顔を作り、いかにも機嫌良さそうである顔をして「はい」と返事をする。行動が変わっても、まだ習慣化できていない。いつも上機嫌の習慣ができれば、人格が変わるだろう。人格が変われば、残り 20 年の人生が大きく変わるだろう。上機嫌。上機嫌。上機嫌。 (渡辺 勝範)



地方都市から世界へ向けての「地方創生」

～ 小さな世界企業に注目 ～

理事 奥原英彦

わが国の景気が、本年4～6月期のGDPの伸びが年率4%増と明るさの一方で、地方部の人口減は止まることなく、全国規模で人口消滅地域が拡大の一途を辿っています。地方に活力を取り戻す施策のはずだった「地方創生」も、年間3千億円近い税金投入の割には、目立った成果を生み出していません。このような地方部の厳しい状況下にあって、地方都市から日本経済を支える「うねり」を興し始めている輸出型ものづくりの中小企業「小さな世界企業」から、目が離せません。この「小さな世界企業」を核とした地域（都市）に、改めて注目してみましょう。

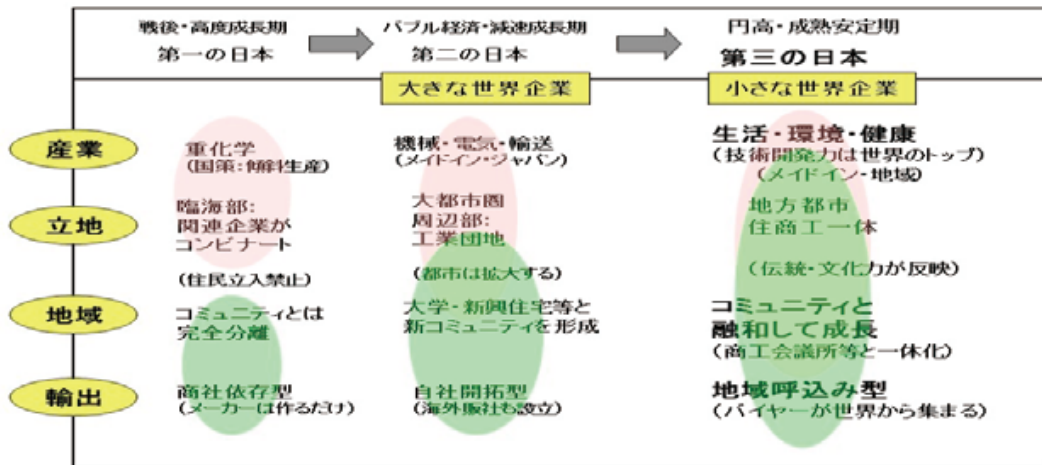
ここで、地方都市から世界に羽ばたいている「小さな世界企業」を二例紹介しましょう。

最初が、「中村ブレイス」（島根県大田市大森町 中村敏郎社長 創業1974年）です。手や足を事故などで無くされた方の義肢装具などの開発・製造を手がけ、海外20カ国へも出荷し海外売上比率も1割近くを占めています。今では、中小企業庁「元気なモノづくり中小企業300社（2006年）」にも選定され、「石見銀山遺跡」を世界遺産にするために尽力するなど、コミュニティと融和して成長し、毎週のように地元新聞や雑誌に報道される地域のエクセレント中小企業ですが、実は、20年程前までは地元島根県でもあまり知られていませんでした。

その頃、島根県の仕事の関係で、地元新聞社から面白い企業があると紹介されて島根県の産業振興担当に問合せしたところ、「そんな会社は知らん」と回答された記憶があります。石見銀山跡地でゴーストタウン化していた大田市大森町で創業し、会社を小さな世界企業として育成するとともに、地域も世界遺産として国際化していくプロセスは、これからの地方都市が生きていく1つのモデルと言えましょう。次が、「テムザック」（福岡県宗像市 高本陽一社長 設立2000年、従業員20人）です。各種のロボットの開発・製造・販売を手がけ、福祉国家デンマークの見守り・コミュニケーション・ロボットにも採用されました。

介護などの生活支援ロボット分野は、わが国の成長分野と目されているにもかかわらず、厚労省関係の岩盤規制によって国内マーケットが出来ていません。わが国の大手メーカーは、技術面では世界の最先端を走っているものの、日本での福祉現場における受入・普及が思うように進まないからです。このため、大企業では輸出もままならない閉塞状況を、福岡県宗像市の中小企業が打破し、この技術力を見込んだ韓国、シンガポール政府が技術提携を申し入れています。

これらの企業例は、人口減で消滅する可能性のある地方部にあつて、企業と地域との優良関係モデルを示していると考えられます。



図のように、戦後の復興期に、重化学工業が臨海部の埋立地に立地し貿易立国したのを「第一の日本」とすると、ハイテクジャパンが大都市周辺に立地し輸出で経済成長してきたのは「第二の日本」と言えましょう。国際競争力を持っている限り、現在の輸出産業の中心である一般機械、電気・情報通信機械、輸送機械などの大企業の製造拠点は、インフラが整い雇用が確保しやすい大都市周辺部に立地し、地域産業連関のピラミッドの頂点として、周辺地域に未広がり構造の中小企業立地と多くの雇用をもたらしてくれました。このため、90年代までの大都市圏の地方自治体では、膨張する都市化の受け皿として、新興住宅地や大学などの教育・研究機関とも一体的にコミュニティ整備を進めることが出来ました。

しかし、円高などの影響で大企業の製造拠点が海外移転してしまうと、単に頂点の大企業ばかりでなく関連中小企業も含めたピラミッド構造ごと地域空洞化してしまい、地域経済が衰退するリスクが生じてきます。加えて、わが国の高齢化のスピードは速く、大都市周辺では、かつての「ニュータウン」が、今や「シルバータウン」に変貌し始めているのが現実です。

このため、「第二の日本」の「大都市圏」に替わって、「地方都市」から日本経済を支える産業を興し始めているのが「第三の日本」と「地方都市」です。中村ブレイスやテムザックのように、企業は地方都市の伝統・文化を吸収しながら、生活・環境・健康などの成長産業分野で、世界でトップクラスの技術開発力で顧客を着実に増やし、バイヤーが世界から集まっています。

企業が地方都市のコミュニティと共に発展し、人口減少や円高をはね返して、地域が世界に開かれて活性化していく。このような企業を地域から見出して支援していくのが、本当の「地方創生」ではないでしょうか。

事業報告書 / 会計報告

平成28年度 第18期 事業報告書
(平成28年4月1日から平成29年3月31日まで)

特定非営利活動法人 ソフトインダストリー研究会

「ホビー・ビレッジ」構想は、日本ホビー協会の協力のもと、調査と実験を重ねていますが、実現にはまだまだ時間がかかりそうです。昨年度は「実験社会への突入」をテーマにセミナー事業に集中して活動をいたしました。本年度も引き続き同じテーマでセミナーの開催を中心に活動をいたしました。またあわせて調査・研究の活動を深めるため、会報の執筆者を広げました。広報活動として、ホームページにて都度、会報を更新して閲覧できるようにした。今後は更に「実験社会への突入」による新しい暮らしを、勇気をもって切り拓く提案をしていく。

2. 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日	実施場所	従事者の数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(円)
情報提供事業	第一回	平成28年7月	日本ヴォーグ社 会議室	3人	14人	38,131
	第二回	平成28年10月	日本ヴォーグ社 会議室	3人	15人	53,099
	第三回	平成28年12月	日本ヴォーグ社 会議室	3人	12人	36,680
	第四回	平成29年2月	日本ヴォーグ社 会議室	3人	17人	91,823
情報提供事業	会報発行	平成28年6月	事務局	4人	70人	4,200
	会報発行	平成28年9月	事務局	4人	70人	18,288
	会報発行	平成28年11月	事務局	4人	70人	38,130
	会報発行	平成29年3月	事務局	4人	70人	26,200
視察会	現地視察会	—	—	—	—	—
調査研究事業	ホビー村構想	28/4月～29/3月	事務局	10人	10人	71,395

平成28年度 活動計算書
平成28年4月1日～平成29年3月31日

特定非営利活動法人 ソフトインダストリー研究会			
科目	特定非営利活動に係る事業	その他の事業	合計(円)
I. 経常収支の部			
1. 受取会費			
正会員受取会費	270,000	0	270,000
賛助会員受取会費	0	0	0
2. 受取寄付金			
受取寄付金	10,000	0	10,000
施設等受入評価益	0	0	0
3. 受取助成金等			
受取助成金	0	0	0
4. 事業収益			
セミナー事業収入	207,000	0	207,000
視察会事業収入	0	0	0
教養講座事業収入	0	0	0
情報提供事業収入	150,000	0	150,000
調査研究事業収入	0	0	0
3. その他収益			
受取利息	3	0	3
雑収入	0	0	0
経常収入合計	637,003	0	637,003
II. 経常支出の部			
1. 事業費			
セミナー事業費	220,733	0	220,733
視察会事業費	0	0	0
教養講座事業費	0	0	0
情報提供事業費	84,815	0	84,815
調査研究事業費	71,395	0	71,395
事業費計	376,943	0	376,943
2. 管理費			
事務消耗品費	23,783	0	23,783
雑費	324	0	324
通信費	32,012	0	32,012
会議費	74,263	0	74,263
接待交際費	54,743	0	54,743
支払手数料	1,232	0	1,232
交通費	2,990	0	2,990
図書研究費	21,336	0	21,336
消耗品費	1,780	0	1,780
荷造運賃費	4,584	0	4,584
諸会費	193,000	0	193,000
管理費計	410,047	0	410,047
経常費用計	786,990	0	786,990
当期経常増減額	△ 149,987	0	△ 149,987
前期繰越正味財産額	314,984	0	314,984
次期繰越正味財産額	164,997	0	164,997

見たことしたこと」白石回想録－11

此処からは出てくるお名前の前に（*）のしるしがついている方々についてはネットで検索すればどういう方かわかります。ご興味あれば検索してください。

ブラジルに行っていたので残りの2年で全科目を獲ろうとしたのですが、財政学2部という科目は取らせてもらえませんでした、学校の決まりで海外に行っていた1年は留学ではない。だから2年間ですべて取るのは許されないというわけの解らない理屈です。結局5年間月謝だけは払うことになりました。でも、在籍5年目は1科目しかないのです。1年の講義のうち3回出席を取るそうで、その時に居ないと「不可」を付けられ卒業できなくなると言われていましたが、私はそれも下らないと思い、一度も出席しませんでした。「良」をもらいました。

学校に行かないのでその時間を有効に使おうと思っていたら、日本学生海外移住連盟から活動資金が枯渇しているので資金作りを手伝ってほしいとの要望です。当時は資金集めのためのダンスパーティが学生の間では良く行われていました。それで当時一番人が入れる建物は何かと聞いたら蔵前にあるに日大講堂（それ以前は大相撲の国技館として使用されていた）があるというのでそこで行おうと決め、ラテンのバンドの*有馬徹とノーチェックバーナにお願いしパーティ券を2千枚売りました。広いと思っていた会場でしたが2千人も入るとダンスどころではありません、有馬徹さんにはパーティが終わった後「演奏どころじゃないよ」と怒られました。これで学校に行くこともないし、学生連盟からも解放されたので、次は自分の今後を考えることになりました。前号に書いた通りブラジルのポルトアレグレで見た三井物産の社員の仕事ぶりを見て、このような仕事ぶりはとても出来ないと思い、三井物産への就職は回避しました。

日本を発つ前にお世話になった森下仁丹の社長*森下泰さんを訪ね相談に乗ってもらいました。森下さんは青年会議所の幹部に面白い男がいるから紹介すると今の都知事、小池百合子さんのお父さんの*小池勇二郎さんに紹介状を書いてくれました。その紹介状をもって大阪中の島にある国際三昌という会社を訪ねました。そこでは即、明日からでも来なさい、東京に事務所を開いたのでそちらに行くようにと言われました。東京の事務所を訪ねた時は東銀座でしたがすぐに西銀座協会のすぐそばに移転しました。私は学生なので学校があるだろうとのことで、社員のような勤務ではなくかなり自由にさせてもらいました。ありがたいことに昭和38年でしたが月に17,000円をもらいました。当時の大卒初任給と同額です。小池社長は東京での定宿は帝国ホテルです。此処にはオペラ歌手の藤原義江さんが住んでいて良く顔を合わせました。小池社長は子煩悩で娘の百合子さんの写真をいつも持っていました。オカッパ頭だったと記憶しています。芦屋の自宅の前に立っている写真です。私は芦屋というと豪邸をイメージしていましたが、普通のお宅でした。小池社長は東奔西走、風神雷神の絵のように国内外を問わずいつもどこかに出かけています。エジプトではピラミッドをバックにアラブの服装でラクダに乗っている写真を見せてくれましたがその装束にシラミがいた

のを知らず後でかゆくなりそのことを知ったという話など。社員は東京進出で急に寄せ集めた人達ですから各々が勝手に動いていてまとまりがありません。稼いでいるのは社長だけでした。そんな中時代はオリンピックに向かいます。ここでも小池社長は本業ではないのですが動き早く、今100円ショップで売っているビニールのレインコート売ることを考えます。担当は私になりました。雨が降ったらすぐに売り出せというのです、レインコートは代々木の岸記念体育館の地下に積み上げられました。お陰でオリンピックの会期中、毎日国立競技場の観覧席でオリンピックを眺めて過ごすことになりました。雨は降りませんでした。東京では主たる事業が定まらず、また、寄せ集め社員でしたので纏まりもなく間もなく東京事務所は閉鎖、撤退となりました。学校での講義は受けられないものの昭和40年の3月までいなければ卒業証書がもらえないので、私は大阪に引き上げる小池社長と別れることになりました。

昭和40年、今はファイザー製薬となっていますが当時は三井系の台湾製糖とアメリカの製薬会社ファイザーとの合併会社、台糖ファイザーに就職しました。当時の台頭ファイザーは人体薬、食品添加剤、農畜産という3つの部がありました。私はブラジルに行ったように農業が好きでしたので農畜産を希望しました。農業とは縁のない学習院出身ですから珍しがられました。教育は日本橋の柳屋ビル内の本社、これが終わると配属です。「東京営業所勤務を命ず」という辞令をもらい、美土代町の東京営業所に行くところでは「新潟県担当」の辞令をもらいました、自分で事務所を開き営業です。給料と外勤手当を含めると3万5千円、この他営業にかかわる経費は申請すればすべて銀行売り込みで送られてきます。実際平日の朝食は取引先の社員と喫茶店のモーニングサービス、昼は課長クラスと洋食か丼もの、夜はたまにですがその上の人と軽く一杯、おかげで60キロだった体重は毎年10キロずつ増えて3年で90キロの肥満体形になりました。赴任当初新潟県の地図を見ると地図の上では長岡市が中心と思い最初の拠点をそこに定めました、新潟県の経済は新潟市です、それに農業も下越（燕三条から始まる越後平野）が大市場です。学生連盟でのお金集め、行き船、サンパウロでの下宿が一緒だった早稲田出身の堀口氏が新潟市に住んでいましたので、彼の誘いもあり彼の家を拠点にして活動することにしました。新潟では皆さんに暖かく接してもらい、売り上げが思うようにならない他は楽しく過ごすことが出来ました。



< 編集後記 >

東京の8月は今日で17日連続で雨である。天気予報が「雨時々止む」というのはあまり聞いたことがない。ベランダのシソやミョウガの収穫は終わってしまい、秋の準備に入ってしまった。こう涼しい日が続くと、夏はやっぱり灼熱の太陽があつて、ビールが美味しいと思ってしまう。来週は晴れ間を見つけて、ベランダ清掃と風呂のカビ取りをしよう。(渡辺)

SORUCA のホームページの画面です。 <http://sorca.p2.weblife.me/>



「特定非営利活動法人ソフトインダストリー研究会」 広報誌
SORUCA 通信 (2017年秋号)

発行責任者 白石 嘉宏
発行所 NPO ソフトインダストリー研究会
東京都新宿区矢来町 47 番地
TEL: 03-3266-1769
FAX: 03-3266-1764
<http://sorca.p2.weblife.me/>
編集人 渡辺 勝範・長谷川 毅
発行日 2017年9月12日



発行元 :NPO ソフトインダストリー研究会